

# 集落協定 かわら版 (第30号)

(平成22年11月8日 山口県農業経営課)

第3期対策が始まりました!



美祢市美東町大石集落協定

面積 / 田 急傾斜 16.1ha

緩傾斜 3.4ha

参加者 34人、1営農組合

交付金 3,648千円



「山口県中山間地域等直接支払制度検討会」(県の第三者委員会)の委員である山口大学農学部の糸原義人教授と山口県連合青年団の川田真子さんが、美祢市美東町の大石集落協定を取材しました。

## 美しい棚田を守ろう!!

・・・美祢市美東町大石(おおいし)  
協定集落・・・

今回は、美祢市美東町綾木の大石集落協定を訪ねました。協定代表の藤井明男さん(70歳)、宮崎昭治さん(82歳)、井上正巳さん(64歳)、藤井春正さん(66歳)、楠成雄さん(64歳)の5名からお話を聞きました。

協定の概要について教えてください。

大石集落協定は、大石地区のほ場整備を契機に、第1期の平成12年から10年間、協定活動を続けてきています。

協定参加者は全戸の34人(うち農業者30人)と1営農組合となっています。協定参加者の平均年齢は68歳くらいです。女性の参画もあり、集落環境整備を中心に行っています。

平成22年度の協定面積はすべて田で19.5ha、うち急傾斜16.1ha、緩傾斜3.4haとなっています。

急傾斜農用地は、「やまぐちの棚田20選」にも選定され、美しいですね。維持が大変ではありませんか?

棚田守りは大変です。昔は石垣造りの棚田でした。よく崩れたものですが、その度に人力で修復してきました。今はほ場整備したので石垣はなくなり大

きな法面となっています。法面には雑草が生えますが、それを人が定期的に刈ることで、法面の崩壊を未然に防いでいます。昔も今も人手がかかることに、変わりはありません。



(美しい棚田、やまぐち棚田 20 選)

立派な倉庫に、大きな農業用作業機械が整然と並んでいますが、これらは中山間地域等直接支払制度の交付金で整備したのですか？

その通りです！行政の指導通りにお金を使ってきた結果です（笑）。

当集落協定では、交付金のうち共同取組活動分を 60%としていて、これまでの 10 年間で、共同利用機械（トラクター、田植機、コンバイン他）や農業用倉庫を計画的に整備してきました。平成 23 年度には、トラクターの更新を予定しています。

この制度があるので機械も整備出来ましたし、集落は大変助かっていま

す。この制度がなくなれば、集落は終わると思います（一同納得）。



(田植機とトラクター、他)

集落協定の活動内容について教えてください。

基礎活動としては、道路・水路の整備、周辺林地の下草刈り、鳥獣被害防止対策等を行っています。鳥獣被害対策は、他の協定がしているお金をかけた防護柵の設置も検討しましたが、数年たつと被害が復活すると聞きましたので、従来通り個人で設置した防護柵等に対して協定が経費を補助する方法を取っています。営農活動については、大石営農組合による受託作業が主力となっています。

大石営農組合の活動について教えてください。

現在大石営農組合では、10ha 強の面積で、受託作業（耕起、代かき、田植え、収穫）を行っています。個人所有機械のリタイヤ等により、この面積は年々増えてきています。受託作業費は、市の基準の半額でやっているの、収支はトントンで、機械の償却費もありません（笑）。

本制度も第3期対策になりましたが、協定内容の変更点は？

第2期対策に比べると、協定面積は若干減りました。農地所有者本人の意志を尊重し、今後5年間確実に耕作できる農地を選定した結果です。

体制整備活動(10割単価)は、C要件(誰が協定農用地を守っていくか、事前に取り決める)による取り組みとなっています。当然引き受け手は大石営農組合になっています。

協定活動の特色を教えてください。

世話をする人が「えらい目をみる」ので、代表者は固定せずに持ち回ることになっていますが、代表者の年齢は関係ありません。やる気のある人がやるしかありません。

行政単位としての「大石区」と、大石集落協定・大石営農組合は、必要に応じて上手に使い分けて活動しています。各組織の役員については、不測の事態が起こっても困らないように、例えば大石区の区長が営農組合の副部長を兼任する等、意識的な役員体制を取っています。この結果、各組織の意思疎通が十分に出来ていることが自慢です。

大石集落には、いざとなったときの結束力・団結力があります！(一同大きくうなづく)

集落や協定の懸案事項は何ですか？

集落協定参加者の高齢化で、草刈り等の共同作業が難しくなってきましたが、助け合い精神で、人が減っ

てきていても、今は何とか作業が出来ています。

問題は、独身者が結構多くいることと、後継者が不足していることです。

独身者に対しては、お嫁さん探しの婚活のお世話を行政からしてもらえば・・・、彼らが世帯を持って本気になったら・・・と思います。これら後継者候補の方が、集落での営農活動に入ってきてやすいようにしてあげることも今後考えていきたいと思っています。

定年退職して大石集落に帰ってくる人が、これからも続くのかどうかはわかりませんが、もし帰ってこられるようになったら、いつでも集落・協定に入ってもらえる準備はしています。

最後に一言

私たちに出来ることは、今を一生懸命やるだけです！(キッパリ)



(左から、糸原委員、井上さん、宮崎さん、川田委員、藤井代表、藤井さん、楠さん)

〜〜編集後記〜〜

企業を退職されまだ若く元気な役員が協定を引っ張り、気持ちが一つになった大石集落協定は、なんてうらやましい集団なんだろうと思いました。中山間直払制度があるから集落が助かっている、なくなれば集落は終わる、の発言が印象的で、本制度を推進する立場として、後押しをもらうと同時に、また責任の重さも感じました。

県農業経営課 中野・縄田

電話 083-933-3350

〜〜取材を終えて〜〜

糸原義人

稲刈りが終わり、切り株も初々しい10月19日、集落協定のお話を聞くために美東町の大石営農組合を訪れた。大石地区は「やまぐちの棚田20選」対象地区に選ばれるだけあって、美しい棚田が眼前に広がっている。

大石地区で集落協定が結ばれたのは平成12年、“中山間直支”と共に歩んできたその後の10年と言える。参加者34人の意思疎通は十分で、大石営農組合の組合長と地区の区長はいつも話し合いをせざるを得ない状況にあり、営農組合と自治組織は一体的な働きをするように仕組みられている。“むら”に起こった様々な課題に対して、臨機応変な対応を取ることができるように組織編成がされている所に大石地区の特徴、最大の強みがあるように思われる。

“中山間直支”によって整備された倉庫には、大型コンバイン、田植機、トラクター等が鎮座し、出番を待っている。平成23年には、新しいトラクターが“直支”によって購入され、“むら”を支える予定になっている。“中山間直支”の働きは大きい。

大石営農組合は受託組織であり、個々の経営からの委託作業を一般価格のほぼ半値で請け負い、農家負担を軽減しながら、下草刈り、道路・水路整備等を行って地域に貢献している。また、地区の女性たちは、

コスモス等の景観作物を植えたりして、景観保全に努めている。

中山間地域の農業は鳥獣の害や棚田で生産性が悪く、決して喜んで農業ができる所ではない。しかし、景観を保全し、地域の暮らしを支えている大石営農組合の皆さんには、“頑張れ！！”と声を大にしてエールを送ると共に、これからも大石地区の皆さんが、共に手を携えながら心豊かな生活を送られるように、心から祈念していきたい。

〜〜初取材〜〜

川田真子

10月19日(火)、美祢市美東町綾木の  
大石集落へ、委員になって初めての取材に行きました。

現地について真っ先に目に入ったのが、倉庫の中にあった大きなコンバインでした。近くで見たのは初めてで、つい「これって、いくらぐらいするもんなんですか?」といきなり質問をしてしまいました。農機具は高い!!とは聞いていましたが…想像以上のお値段に驚きました。

お邪魔した大石集落の協定参加者は34名で、平均年齢は約68歳。下は22歳から最高齢はなんと90歳だそうです。今回は代表者の藤井さんをはじめ5名の協定参加者の方にお話を伺いました。

市の担当の方から概要説明があり、質疑応答といった形で取材が進んでいきました。実家は農家ではないので農業の知識はほとんどありませんでしたが、話を聞けば聞くほど、その大変さや厳しさなど農業に対する思いがひしひしと伝わってきました。「後継者問題」という悩みでは、まさに今、青年団も同じ悩みを抱えているので他人事とは思えず、何かできないものかと考えずにはいられませんでした。

今回、実際に現場へ行き、現状を生で見、聞くことができ、とても貴重な時間となりました。この「出会い」を大切に、これから委員として、そして、若者代表として何かお手伝いが出来たらと思います。